会社概要

商号	林兼産業株式会社
本店所在地	〒750-8608 山口県下関市大和町二丁目4番8号 TEL（083）266-0210 FAX（083）266-1266
主要製品	食肉加工品（キリシマハム）・肉類（霧島黒豚） 魚肉ハム・ソーセージ（マルハハム・ソーセージ） 機能性食品（エラスチン・ソフミート） 養魚用飼料

役員一覧

平成30年9月30日現在

取締役社長（代表取締役）		熊山	忠和
専務取締役	飼料事業部長	中部	哲二
常務取締役	水産食品事業部長 兼開発部担当	岡本	伸孝
取締役	（社外・非常勤）	岩村	修二
取締役	（社外・非常勤）	牟田	実
取締役	畜産食品事業部長 兼東京支社担当 兼大阪支社担当	三井	宏
取締役	管理本部長 兼経営企画室担当 兼品質保証部担当	高田	啓吾
取締役	飼料事業部副事業部長	三代	健造
常任監査役	（社外・常勤）	山本	昌信
監査役	（社外・非常勤）	大深	邦宏
監査役	（非常勤）	川崎	哲彦
監査役	（社外・非常勤）	桑原	望

○株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081　新東京郵便局私書箱第29号
連絡先	電話 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）
公告の方法	電子公告により行う

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915 www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK

この報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。

Today's Special

逸品ギフト　銘店監修シリーズ

横浜桂林×霧島黒豚 中華デリカセット

横浜桂林は、創業当初より「本当の中華の味」を追い求め、大人気のデパ地下中華ブランド「桂林」として全国の有名百貨店に出店しています。

本製品は、そんな横浜桂林と霧島黒豚がコラボレーションしてできた逸品です。

当社ホームページでIR情報等がご覧いただけます。

http://www.hayashikane.co.jp/

林兼産業　検索

証券コード｜2286

With you

第80期 中間期

株主通信

平成30年4月1日～平成30年9月30日

林兼産業株式会社

社長から皆さまへ

株主の皆さまに第80期中間株主通信をお届けするにあたり、日ごろのご愛顧とご支援に厚く御礼申しあげます。

当中間期の当社グループの売上高は、養魚用飼料や機能性食品の売上が増加したことなどにより217億82百万円（前年同期比1.6%増加）となりました。損益面におきましては、原材料価格が高値で推移したことにより営業利益は4億81百万円（前年同期比11.5%減少）、経常利益は5億45百万円（前年同期比12.9%減少）となりましたが、税金費用の減少により親会社株主に帰属する四半期純利益は4億2百万円（前年同期比1.6%増加）となりました。

当社グループは、本年4月からの2ヵ年を事業基盤の確立の期間として「第四次中期経営計画」（2019年3月期～2020年3月期）を策定し、スタートさせました。「前進～次のステージへ」をテーマに、「収益基盤」「財務基盤」「経営基盤」の安定化を図っております。

「収益基盤」については、機能性食品の増産対応や加工食品工場の最適生産体制を構築するとともに、投資効果の検証などを通じて収益体制の確立に取り組んでおります。

「財務基盤」については、有利子負債や在庫の圧縮による財務改善を図っております。

「経営基盤」については、コーポレートガバナンスを更に強化し継続的な企業価値向上を図っております。

今後もこの経営計画のもと、持続的な成長を可能とする事業基盤の確立を目指してまいりますので、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成30年12月

取締役社長
熊山　忠和

※「第四次中期経営計画（2ヵ年経営計画）」の詳細につきましては、当社ホームページ「IR情報」をご参照ください。
［http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html］

セグメント概況

[水産食品事業]

魚肉ねり製品は、国内市場が縮小傾向のなか、魚肉ソーセージの主力取引先への販売数量が減少したことにより、減収となりました。

機能性食品は、機能性食品素材「カツオエラスチン」および高齢者向けソフト食「ソフミート」の販売が好調に推移したことにより、増収となりました。

これらにより、売上高は23億58百万円（前年同期比2.0％増加）となりました。

セグメント別売上高

23億58百万円
（前年同期比2.0％増）

[畜産食品事業]

ハム･ソーセージ等食肉加工品は、業務用商材の販売数量が減少したことなどにより、減収となりました。

肉類は、牛肉の販売数量が増加したことなどにより、増収となりました。

調理食品は、販売単価が下落したことにより、減収となりました。

これらにより、売上高は97億66百万円（前年同期比0.1％増加）となりました。

セグメント別売上高

97億66百万円
（前年同期比0.1％増）

[飼料事業]

養魚用飼料は、販売数量が増加したことや、原材料価格高騰に対応した価格改定を行ったことにより、増収となりました。

水産物は、ブリの取り扱い量が減少したことにより、減収となりました。

畜産用飼料は、養豚用飼料の販売数量が減少したことなどにより、減収となりました。

これらにより、売上高は85億37百万円（前年同期比1.6％増加）となりました。

セグメント別売上高

85億37百万円
（前年同期比1.6％増）

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

（単位:百万円）

科目	当中間期（平成30年9月30日）
資産の部	
流動資産	15,055
固定資産	17,570
有形固定資産	10,246
無形固定資産	24
投資その他の資産	7,299
資産合計	32,625
負債の部	
流動負債	16,749
固定負債	7,348
負債合計	24,097
純資産の部	
株主資本	6,021
資本金	3,415
資本剰余金	8
利益剰余金	2,604
自己株式	△7
その他の包括利益累計額	1,691
その他有価証券評価差額金	1,732
繰延ヘッジ損益	2
為替換算調整勘定	11
退職給付に係る調整累計額	△54
非支配株主持分	814
純資産合計	8,527
負債純資産合計	32,625

中間連結損益計算書

（単位:百万円）

科目	当中間期（自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 9月30日）
売上高	21,782
売上原価	18,218
売上総利益	3,563
販売費及び一般管理費	3,082
営業利益	481
営業外収益	152
営業外費用	89
経常利益	545
特別利益	0
特別損失	9
税金等調整前四半期純利益	536
法人税、住民税及び事業税	112
法人税等調整額	△2
四半期純利益	426
非支配株主に帰属する四半期純利益	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	402

中間連結キャッシュ･フロー計算書

（単位:百万円）

科目	当中間期（自 平成30年 4月 1日 至 平成30年 9月30日）
営業活動によるキャッシュ･フロー	△1,668
投資活動によるキャッシュ･フロー	△517
財務活動によるキャッシュ･フロー	946
現金及び現金同等物に係る換算差額	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,237
現金及び現金同等物の期首残高	2,765
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,528

○連結売上高

○連結経常利益

○親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益